

製品名: ATF6 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe02905**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.63mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 75 kDa; Observed MW: 90-100 kDa

抗原情報

遺伝子名	ATF6
別名	activating transcription factor 6; ATF6A
遺伝子 ID	22926
SwissProt ID	P18850
免疫原	ヒト ATF6 の組み換えタンパク質

背景

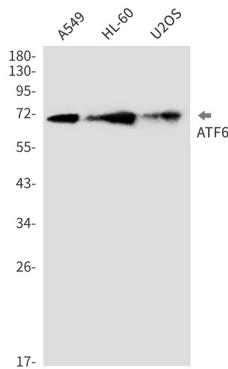
この遺伝子は、小胞体（ER）ストレス時に小胞体タンパク質応答（UPR）の標的遺伝子を活性化する転写因子をコードしています。

転写因子ではありますが、このタンパク質はERに埋め込まれた膜貫通タンパク質として合成されるという点で珍しいものです。ERストレスセンサー/トランスデューサーとして機能し、ERストレス誘導性タンパク質分解後、ERシャペロンをコードする遺伝子のプロモーターに存在するシス作用性ERストレス応答エレメント（ERSE）を介して核内転写因子として機能します。このタンパク質は、静止期の扁平上皮癌細胞の生存因子として同定されていますが、増殖期の扁平上皮癌細胞には同定されていません。異なる集団におけるこの遺伝子の多型と糖尿病との関連性については相反する報告がありますが、別の多型は血漿コレステロール値の上昇と関連付けられています。この遺伝子は、嚢胞性線維症の潜在的な治療標的でもあり考えられています。[RefSeq 提供、2011年8月]

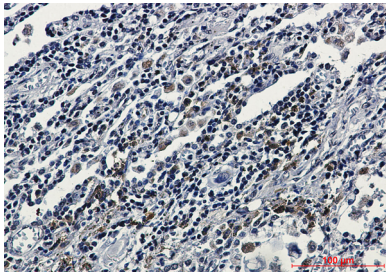
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



ATF6 抗体を使用した A549、HL-60、U2OS 溶解物中の ATF6 のウエスタン ブロット分析。



ATF6 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。